

年間授業計画様式

東京都立千早高等学校 平成28年度 教科 地歴科 科目 日本史A 年間授業計画

教科：地歴科 科目：日本史A 単位数：2単位

対象学年組：HR3 1～HR3 6

使用教科書：（『高等学校日本史A ひと・くらし・未来』（第一学習社）

使用教材：（なし）

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	ペリー来航と条約調印 開国後の政治と経済 幕末抗争の激化	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国の東アジア進出を産業革命後の世界情勢という観点からとらえ、日本の開国を世界史の流れの中で理解させる。 ・開始された貿易が従来の国内経済に急激な変化を引き起こし、経済の混乱が尊攘運動を激化させ、幕藩体制の危機を深化させたことを理解させる。 ・幕府の権威低下を背景に、公武合体と尊攘派という二つの勢力の動きがあったことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートによる基本事項の確認 	4

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	倒幕運動 大政奉還と戊辰戦争	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薩英戦争と下関戦争を機に薩長討幕派が結成され、幕府が窮地に追いつめられていく過程を理解させる。 ・ 大政奉還後も倒幕派と旧幕府の対立は解消されず、戊辰戦争という1年半続いた内乱を経て明治新政府が成立したことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査・ノートによる基本基礎事項の確認 	8

指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>6月</p> <p>新しい統一国家の形成 新政のはじまり 地租改正と殖産興業 文明開化と啓蒙主義 社会生活の変化 人と文化の交流 初期のアジア外交</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徴兵令・軍隊制度を中央集権化の一環として把握させるとともに、血税一揆などを通して明治政府に対する国民の批判を理解させる。 ・ 地租改正は国家財政の安定をはかり、農民の土地所有権を認めるものであったが、農民の負担は軽減されず、寄生地主制の端緒となったことを理解させる。 ・ 西洋文明の摂取によって成立した啓蒙思想は、自由主義・個人主義・民主主義の広がりをもち、後の自由民権運動に大きな影響を与えたことを理解させる。 ・ 台湾出兵と江華島事件が日本の隣国である中国・朝鮮との不幸な関係の出発点となったことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノートによる基本事項の確認 	10

指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>7月</p> <p>反政府運動の動き アジアの動向と自由民権運動 松方財政と近代産業の発達 民権運動の激化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近代日本の民主主義運動の原点は自由民権運動であり、その当初の主体は反政府派士族であったことを理解させる。 ・松方財政は国民生活の犠牲の上に展開され、寄生地主制度の契機となったことを理解させる。 ・松方デフレ政策の中で民権運動は分裂し、福島事件・秩父事件などを経て、民権運動が沈滞していったことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・ノートによる基本基礎事項の確認 ・レポート等提出物による評価 	4

8月	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	憲法の諸構想と大日本帝国憲法 立憲体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国憲法の本質をその制定過程の特徴と日本国憲法との比較において理解させる。 ・近代的法体系を整備する過程で、天皇制支配を支える修正が加えられたことに着目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートによる基本事項の確認 	6

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	初期議会 条約改正の経過 朝鮮問題 日清戦争と三国干渉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期議会における政府と民党の対立の背景について考察させる。 ・ 条約改正の経過を内外情勢との関連で考察させ、改正交渉の困難さを理解させる。 ・ 日本の朝鮮侵略が朝鮮内部および対清国関係でどのような問題を引き起こしたか理解させる。 ・ 日清戦争によって築かれたアジアにおける日本の地歩と、あらたな矛盾について把握させ、その後の国内の政治経済に及ぼした影響について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査・ノートによる基本基礎事項の確認 	8

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	資本主義の確立 日清戦争後の政治と社会 近代化の諸思潮 北清事変と日英同盟	<ul style="list-style-type: none"> ・日清戦後の政党政治の進展とそれに対する藩閥官僚勢力の対応を資本主義の発展と関連させて理解させる。 ・明治中期以降、日清戦争を契機とする思想界の動向の変化について理解させる。 ・アジアにおいて成立した帝国主義体制の中で日本の位置を考察させ、日英同盟締結の歴史的背景を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートによる基本事項の確認 	10

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	日露戦争と国民 日露戦争後の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・日露戦争の原因と性格を理解させ、国内に及ぼした影響について戦争前後の世論の動向に注目させて考えさせる。 ・激しい民族的抵抗を抑圧して推進された朝鮮の植民地化と満州侵略の経過を具体的に理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・ノートによる基本基礎事項の確認 ・レポート等提出物による評価 	6

指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数	
1 月	資本主義の発達と社会運動 第一次護憲運動 第一次世界大戦と中国侵略	<ul style="list-style-type: none"> ・政友会と官僚勢力の妥協による桂園時代について、日露戦後の国民生活と労働運動・社会運動の発展との関連で理解させる。 ・第一次護憲運動の背景として、民衆の意識と動向、政党勢力と特権勢力の対抗関係の2点について理解させる。 ・第一次世界大戦がなぜ起こったのか、それに日本はどのように対応したかを、二十一か条の要求に見られる中国侵略の展開を中心に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートによる基本事項の確認 	6

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 月			・定期考査・ノート による基本基礎事項 の確認 ・レポート等提出物 による評価	1

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月				

年間授業計画様式

東京都立千早高等学校 平成28年度 教科 地歴科 科目 日本史B 年間授業計画

教科：地歴科 目：日本史B 単位数：3単位

対象学年組：HR2 1～HR2 6

使用教科書：（『日本史B』実教出版）

使用教材：（『ビジュアル版 日本史図録』山川出版）

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	1章 日本文化のあけぼの 1、日本最古の文化 2、縄文時代の社会と文化	・日本列島において、打製石器をおもな道具として狩猟・採集生活を行っていた旧石器文化が存在したことを理解させる。 ・自然環境の変化により日本列島が大陸から切り離された頃、土器を持つ新たな文化として縄文文化が成立したことを理解させる。	・ノート・プリントによる基本事項の確認	6

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	<p>2章 水稻農業の開始と社会生活の進展</p> <p>1、弥生時代の社会と文化</p> <p>2、小国の分立と邪馬台国</p> <p>3、大和政権の成立と東アジア</p> <p>4、古墳の成立と発展</p>	<p>・大陸・朝鮮半島から水稻耕作や金属器などの進んだ文化をもった人々が九州北部に移り住んだことを理解させる。</p> <p>・中国の史書に記された倭や倭人の記述から、弥生時代中期から後期にかけての小国の分立について理解させる。</p> <p>・大和政権が西日本を中心とした首長の政治連合体として形成され、徐々に統一国家形成をめざしていたことを理解させる。</p> <p>・古墳の出現の状況やその規模、副葬品などに着目し、弥生時代と比べてその被葬者の権力の強大化を理解させ、大和政権の形成について考察させる。</p>	<p>・定期考査・ノート・プリントによる基本基礎事項の確認</p>	12

指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>6月</p> <p>5、大陸文化の摂取 3章 東アジア文化の影響と律令制度の成立 1、推古朝の政治と飛鳥文化 2、律令国家成立期の政治と文化 3、律令体制とその実態 4、天平文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・渡来人が伝えた技術や文化についての認識を深め、大和政権とその後の日本文化の発展に彼らが大きく貢献したことを理解させる。 ・厩戸皇子と蘇我馬子のもとですすめられた推古朝の政治を、中央集権体制の形成に向けての諸政策と、遣隋使の派遣に代表される外交政策からとらえさせる。 ・天武・持統朝において、推古朝以来の政治的課題であった中央集権的国家の実現がなつたことを、この時期に実施された諸政策・諸制度を通して理解させる。 ・律令制度における官制・身分制度・土地制度・税制・司法制度などの諸様相を多角的・多面的に理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート・プリントによる基本事項の確認 	12

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	4、天平文化	・天平文化の特色について、唐文化やインド・ペルシャ文化などの影響や民衆とのつながりに着目して考察させる。	・定期考査・ノート・プリントによる基本基礎事項の確認 ・レポート等提出物による評価	6

8月	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	5、平安初期の政治と文化 4章 摂関政治と荘園公領制の 展開 1、摂関政治と 地方の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・桓武朝の平安遷都の背景を考察させるとともに、桓武朝から嵯峨朝までの律令制再編策について、その効果に着目させて理解させる。 ・皇室と外戚関係を築き発展していった藤原北家が、同時に他氏の排斥によって摂政・関白の地位を手に入れ、やがてその地位を独占していくことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート・プリントによる基本事項の確認 	6

指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>10月</p> <p>2、国風文化 3、荘園公領制の形成と武士団 5章 武家社会の成立と文化の新機運 1、院政と平氏政権</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遣唐使が停止され大陸文化の影響がうすれる中で、唐風文化を消化し、日本独自の優美でこまやかな情緒に富む貴族文化が形成されたことを認識させる。 ・11世紀半ば以降に出現する寄進地系荘園の成立過程を史料などを活用し理解させ、荘園支配体制を把握させるとともに、荘園公領制を考察させる。 ・白河・鳥羽院政期に武家の棟梁として台頭した平氏によって、保元・平治の乱を契機として武家政権への道が開かれたことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・ノート・プリントによる基本基礎事項の確認 	10

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	2、鎌倉幕府の成立 3、武家政治の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の政治支配機構が、源平の争乱の中で実質的かつ段階的に整備されていく過程を把握し、その特質を理解させる。 ・頼朝死後の北条氏による執権政治の成立過程を整理し、その内容を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート・プリントによる基本事項の確認 	12

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	4、鎌倉武士と農村生活	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉武士独自の生活習慣を、在地経営・惣領制・兵の道の理解を通して、具体的に把握させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・ノート・プリントによる基本基礎事項の確認 ・レポート等提出物による評価 	8

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	5、蒙古襲来と幕府の衰退	・得宗専制体制とそれへの反発、蒙古襲来後の御家人の窮乏によって生じた幕府政治の動揺を把握させる。	・ノート・プリントによる基本事項の確認	8

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 月	6、鎌倉文化	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉文化の特色を文化の刷新という観点からとらえ、旧来の公家文化の変貌と新興の武家文化の台頭による文化の新傾向として把握させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート・プリントによる基本事項の確認 	8

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月	鎌倉仏教	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌倉仏教が新たに勃興してきた武士や庶民に受容され、旧仏教の対抗勢力になっていく過程を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査・ノート・プリントによる基本基礎事項の確認 ・ レポート等提出物による評価 	6

年間授業計画様式

東京都立千早高等学校 平成28年度 教科 地歴科 科目 選択日本史A 年間授業計画

教科：地歴科 科目：選択日本史A 単位数：2単位

対象学年組：HR3 1～HR3 6 (A選択)

使用教科書：(『高等学校日本史A ひと・くらし・未来』(第一学習社))

使用教材：(なし)

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	近世の生活と文化	幕藩体制を支える農民や町人の生活を比較させながら、それぞれの特徴をとらえさせる。	・ノート・プリントによる基本事項の確認	4

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	江戸初期の文化	<ul style="list-style-type: none"> 江戸初期の文化が桃山文化と元禄文化の間にあって、どのような位置を占めているのか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査・ノート・プリントによる基本基礎事項の確認 	8

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月	学芸の発展と元禄文化 江戸中・後期の文化	<ul style="list-style-type: none"> ・元禄文化の特色とその担い手について、社会・経済の発展と関連づけて理解させる。 ・この時期の文化は刹那的傾向をもつものであったが、庶民の経済的・社会的成長を背景にもち、彼らの生態・風俗などが生き生きと描写されていたことを理解させる。 	・ノート・プリントによる基本事項の確認	10

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	国風文化	<ul style="list-style-type: none"> ・国風文化の多彩な展開を、文芸・美術・工芸・書・音楽などを通して把握させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・ノート・プリントによる基本基礎事項の確認 ・レポート等提出物による評価 	4

8月	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	院政期の文化	・院政期には貴族文化が地方に広がっていったこと、また貴族の目が台頭する武士や庶民にも向けられていったことを、美術・建築・文芸などの具体例より考察させる。	・ノート・プリントによる基本事項の確認	6

指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数	
10 月	鎌倉文化 鎌倉仏教	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌倉文化の特色を文化の刷新という観点からとらえ、旧来の公家文化の変貌と新興の武家文化の台頭による文化の新傾向として理解させる。 ・ 鎌倉新仏教が新たに勃興してきた武士や庶民に受容されたことに触れながらも、中世の仏教の主流は依然として旧仏教の諸寺院であったことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査・ノート・プリントによる基本基礎事項の確認 	8

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	室町文化	・室町文化の多彩な展開を、文芸・建築。美術・工芸・諸 芸能などを通して把握させる。	・ノート・プリント による基本事項の確 認	10

指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数	
12 月	桃山文化	<ul style="list-style-type: none"> ・桃山文化の特色が、武将や豪商の権力や富、彼らの気風により豪壮で雄大であること、都市の民衆文化の発達により現世享樂的な側面をもっていること、これまでの宗教的色彩が薄れてきたことにある点をとらえさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・ノートによる基本基礎事項の確認 ・レポート等提出物による評価 	6

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	<p>絵画資料を読み解く</p>	<p>・絵巻物・浮世絵などを用いて、そこに描かれている人々の生活文化について考察する。</p>	<p>・ノート・プリントによる基本事項の確認</p>	6

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 月			<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・ノー ト・プリントによる 基本基礎事項の確認 ・レポート等提出物 による評価 	1

	指導内容	科目日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月				

年間授業計画様式

東京都立千早高等学校 平成28年度 教科 地歴科 科目 選択日本史B 年間授業計画

教科：地歴科 目：選択日本史B 単位数：2単位

対象学年組：HR3 1～HR3 6 (B選択)

使用教科書：(『日本史B』 実教出版)

使用教材：(『ビジュアル版 日本史図録』 山川出版)

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	1 2章 十五年戦争と日本 1、満州事変 軍国主義化の進展	・満州事変をきっかけとして、軍部とそれに同調する勢力が台頭し、政党政治の崩壊、思想・言論の抑圧が進行したことを理解させる。	・ノート・プリントによる基本事項の確認	4

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	二・二六事件 2、日中戦争 戦時体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・二・二六事件を契機に軍部の政治的発言力がさらに強まり、ファシズム国家のドイツ・イタリアへの接近が急速に進んだことを理解させる。 ・日中戦争の泥沼化によって戦時体制が強化され、しだいに国民生活が「圧迫」されていったことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・ノート・プリントによる基本基礎事項の確認 	8

指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>6月</p> <p>日独伊三国軍事同盟と南進 アジア太平洋戦争</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開戦と大東亜共栄圏 2 本土空襲と沖縄戦 3 敗戦 4 戦時下の国民生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア太平洋戦争開戦に至る経緯を、日米交渉の進展経過と対ソ政策・南進政策と関連させて理解させる。 ・開戦後の戦局の推移と「大東亜共栄圏」の実態を理解させ、それが戦後に残した課題について考えさせる。 ・敗戦に至る過程をたどりながら戦争の悲惨さを明らかにし、あわせて戦後の世界秩序を作り出していった連合国の動向を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート・プリントによる基本事項の確認 	10

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月			<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・ノート・プリントによる基本基礎事項の確認 ・レポート等提出物による評価 	2

8月	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	占領と民主改革	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連合国による日本占領の特徴と、初期の占領政策による民主化政策が戦後日本の原点になっていることを理解させる。 ・ 財閥解体・農地改革・労働改革が日本社会の構造をどのように変化させたかを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノート・プリントによる基本事項の確認 	6

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	サンフランシスコ講和会議と安保体制	・講話と国際社会への復帰が、どのような世界情勢を背景に実現したのか、またそれが残した問題点について理解させる。	・定期考査・ノート・プリントによる基本基礎事項の確認	8

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	摂関政治と地方の動向 荘園公領制の形成と武士団	<ul style="list-style-type: none"> ・ 皇室と外戚関係を築き発展していった藤原北家が、同時に他氏の排斥によって摂政・関白の地位を手に入れ、やがてその地位を独占していくことを理解させる。 ・ 11世紀半ば以降に出現する寄進地系荘園の成立過程を史料とともに活用し理解させ、荘園支配体制を把握させるとともに、荘園公領制を考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノート・プリントによる基本事項の確認 	10

指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数	
12 月	院政と平氏政権	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白河・鳥羽院政期に武家の棟梁として台頭した平氏によって、保元・平治の乱を契機として武家政権への道が開かれたことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査・ノートによる基本基礎事項の確認 ・ レポート等提出物による評価 	6

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	鎌倉幕府の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の政治支配機構が、源平の争乱の中で実質的かつ段階的に整備されていく過程を把握し、その特質を理解させる。 ・頼朝死後の北条氏による執権政治の成立過程を整理し、その内容を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート・プリントによる基本事項の確認 	6

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 月			<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・ノー ト・プリントによる 基本基礎事項の確認 ・レポート等提出物 による評価 	1

3月	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数